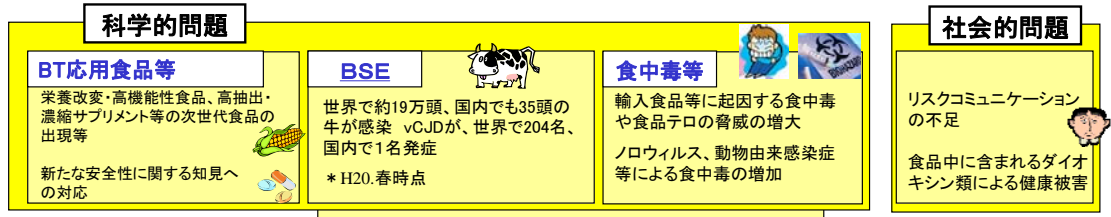
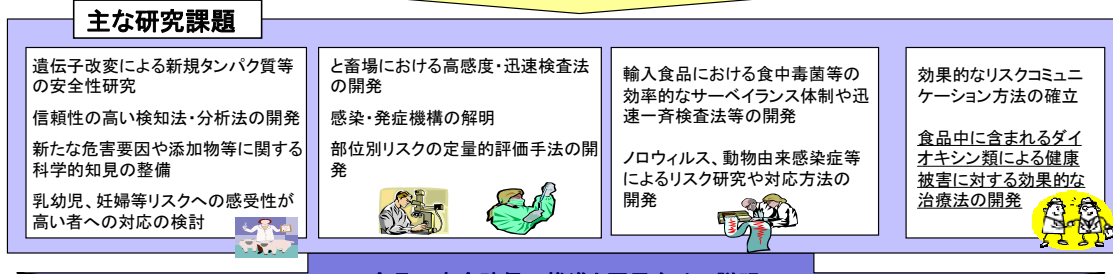


食品の安全に資する研究の推進



食品の安全に対する不安の増大



食品の安全確保の推進と国民向けの説明

健康安全・安心の実現(2015年頃までに食品による健康被害事例を低減させる。)

成果目標

2010年までに、次世代の食品の安全性を確保するため、意図せざる新規代謝物質の発現等の影響を検証する手法を開発
 2010年までに、輸入食品における食中毒菌等の体系的サーベイランス体制を構築
 2010年までに、と畜場におけるBSE検査用高感度・迅速検査法、食品中に存在する食中毒菌等の迅速一斉検査法を実用化
 2010年までに、添加物450品目について安全性に関する科学的知見を整備
 2010年までに、食品の安全に関するリスクコミュニケーション手法を体系化

牛海綿状脳症(BSE)対策

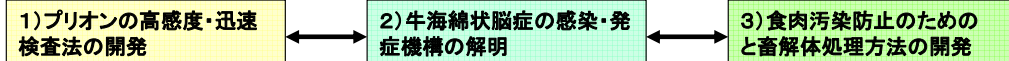
BSE発生 **国内29頭** 世界約19万頭

変異型CJD発生 **国内1名** 世界195名

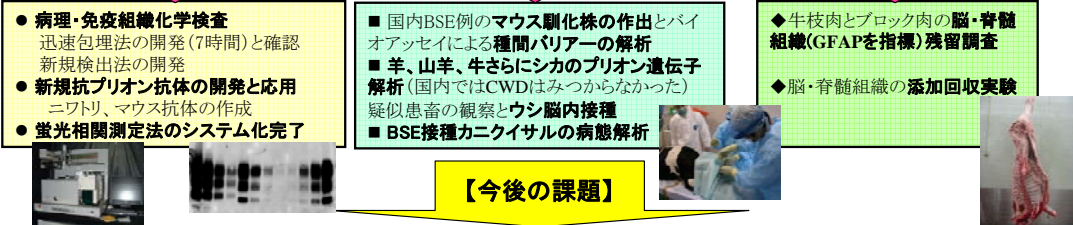
BSEに対する国民の不安は、BSEのヒトへの感染・発症機構が解明されていないことが最大の要因

⇒食品を介するBSEリスクを解明することは、安全・安心で質の高い食生活が可能な国への発展に貢献

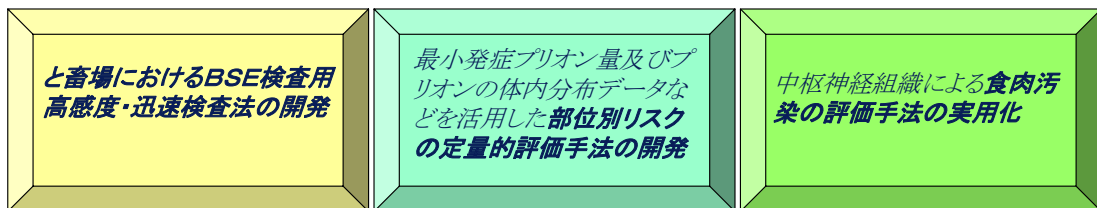
<課題>



<研究成果>



【今後の課題】



CWD : Chronic Wasting Disease 慢性消耗病 GFAP : Glial Fibrillary Acidic Protein グリア細胞繊維性酸性タンパク